

国語一 16 (第5学年) 事物のよさを多くの人に伝えるための文章を書く事例

【学習活動の概要】

1 単元名 町のよさを伝える推薦文を書こう		
2 単元の目標 自分の課題について調べ、考えを明らかにしながら集めた材料を効果的に使って、事物を推薦する文章を書くことができる。		
3 評価規準		
【国語への関心・意欲・態度】		
・多面的に見たり、他と比較したりしながら、推薦するにふさわしいものであることを確かめた上で、そのよさがより多くの人に伝わるように推薦文を書こうとしている。		
【書く能力】		
・自分が多くの人にぜひ薦めたいと思う事物のよさを、確かな根拠をもって選んだり、他と比較してのよさをとらえたりしている。		
・不特定の相手にもよさが伝わるように、複数の根拠や事例を挙げたり、よさを表すのにふさわしい推薦するための語句を使ったりしながら、事物を推薦する文章を書いている。		
【言語についての知識・理解・技能】		
・文章にはいろいろな構成があることについて理解し、目的に合った構成を選んで書いている。		
4 教材 教科書教材 町のよさを推薦するパンフレットのモデル(自作教材)		
5 主な学習活動(単元の指導計画(全8時間))		
	学 習 活 動	言語活動に関する指導上の留意点
第一次	学習の見通しをもつ。 他の地域のよさを推薦した、教師自作のパンフレットの紹介を聞く。 パンフレットのつくりを調べた上で、自分たちの町のよさを推薦するパンフレットを作るというめあてをもち、学習計画を立てる。	・推薦するためには、多面的に材料を集めたり、その中から自信をもって薦められるものを選んだりすることが大切であることに気付くよう助言する。 ・これまでの「書くこと」の学習を振り返って計画を立てられるようにする。
第二次	情報を集めてパンフレットを作る。 自分たちの町のよさを推薦する観点を様々に列挙し合う。 自分は特にどのようなよさを推薦したいかを考えながら、パンフレットのモデルを基に、8ページ分の仮の割り付けを考え、材料収集のための見通しをもつ。 割り付け案に基づいて、自分たちの町のよさを推薦するための情報を集める。 集めた材料を分類・整理し、割り付けに修正が必要か、追加取材が必要かどうかを考える。 パンフレットを構成するそれぞれの文章の種類に応じて、見出しやリード、図や写真などを組み合わせながら下書きの文章を書く。 下書きの文章を組み合わせ、全体として伝えたい町のよさが伝わるかどうかを観点として自分で推敲したり相互評価したりする。 パンフレットを清書する。	・様々なよさをリストアップしたり、仮の割り付けを考えたりすることを通して、自分が最も表現したいことは何かを明らかにしていけるようにする。 ・情報を集める際には、町の広報誌や書籍、物産館の案内、産業のデータ、地域の人の話など、多様なものがあるため、仮の割り付けを基に、どのような情報収集方法が適切かを考えられるようにする。 ・パンフレットのそれぞれのパーツを構成する文章には、 キャッチコピー 解説文 案内文(お誘いの文) 図やグラフ、写真を解説した文章など多様なものがあることに気付かせる。 ・対象にふさわしい推薦の言葉を選んで用いるよう助言する。
第三次	完成したパンフレットを読み合い、交流する。 書き手の意図を踏まえながらパンフレットを読み合せて、町のよさを伝えるための材料収集のよさや推薦するために用いた言葉の巧みさなどについて助言し合う。 町外の方々が訪れる施設に展示し、読んだ感想を一言カードに書いてもらう。	・完成したものを、改めて読み手としての相手から読んでもらって助言や感想を得ることによって、書き手として気付かなかった点を明らかにし、次の書く学習に生かせるようにする。

【解説】

【指導事例と学習指導要領との関連】

小学校学習指導要領・国語の第5学年及び第6学年「B書くこと」の指導事項「ア 考えたことなどから書くことを決め、目的や意図に応じて、書く事柄を収集し、全体を見通して事柄を整理すること。」と指導事項「ウ 事実と感想、意見などを区別するとともに、目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりすること。」を取り上げて指導するものである。

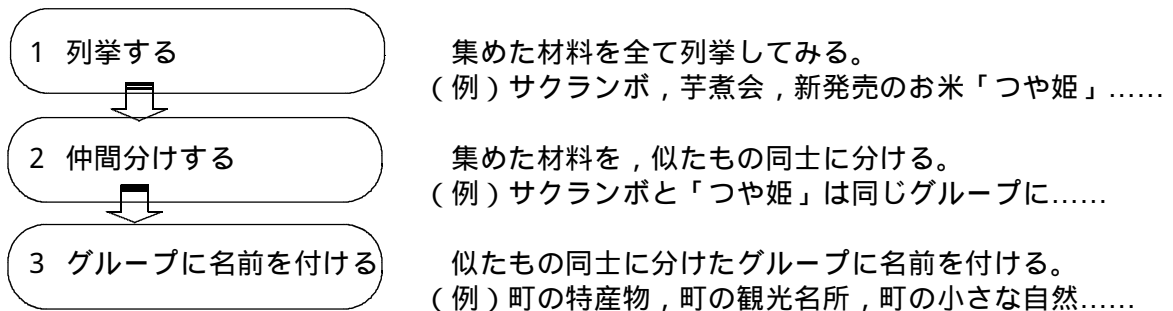
その際、「B書くこと」の言語活動例ウに示す「事物のよさを多くの人に伝えるための文章を書くこと。」を通して指導することにより、指導の効果を高めた事例である。

【言語活動の充実の工夫】

収集した材料を分類・整理して効果的に用いるための工夫

情報を分類・整理するためには、どのような思考過程を通して、どのような言語操作を加えるのかを明らかにする必要がある。例えば次のような過程をふむことが考えられる。

[収集した材料の分類・整理のステップ]



確かな根拠をもって町のよさを伝えるための工夫

不特定多数の人々に推薦するためには、調べた町のよさについてよく認識し、それが確かな根拠に裏付けられているかどうか、他と比較しても確かによいと言えるかどうかなどを確認する必要がある。具体的には、以下のようなことが挙げられる。

データの信頼性を確かめる。

- ・ 集めた情報の出どころははっきりしているか。
- ・ データは古くなってはいないか。

多様な相手に応じる。

- ・ ある人々にとってはよさでも、他の人々にとっては不快に感じられてしまうことはないか。
- ・ 写真や資料、文章などで伝わりやすいよさか。伝わりにくいものならどのように伝えればよいか。

相対的に考える。

- ・ 町外の同様のデータと比較した場合でもよさと言えるか。
- ・ 滅多に見られなかったり、すぐなくなってしまうものではなく、安定的に楽しんでもらえるようなよさか。逆に、パンフレットで周知する期間に限定的に見られるものか。

推薦対象への認識を深める。

- ・ 聞きかじっただけではなく、自分でも体験したり味わったりしてよく知っているものか。
- ・ 直接体験が難しいものについては、調べてそのよさをしっかり把握することができているか。

推薦の言葉を用いて、対象となる事物を推薦するための工夫

パンフレット中のキャッチコピーや解説したり紹介したりする文章においては、読み手に対して推薦対象を薦める言葉（例：「他にはない」「この町ならではの」……）やそのよさを的確に表現する言葉（例：「ほんのり甘い」「歴史に彩られた」……）を用いることが有効である。

指導に当たっては、読むことの学習や各教科等の学習で用いるそうした語彙を蓄積し、児童が必要に応じて用いることができるようにすることが大切である。

思考力・判断力・表現力等の学習活動の分類： ,